

2012月3月5日 ITCN 夜の集会メッセージ 『標的のとらえ方教え☑(ます)』

聖書箇所 マルコによる福音書8章34節～36節、

34：それから、イエスは群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて、彼らに言われた。「だれでも私について来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。

35：いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音のためにいのちを失う者はそれを救うのです。

36：人は、たとえ全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。

メッセージ骨子：

<序論> 17歳で不慮の交通事故で片足を完全に失いながらも、その7年後の2008年、北京オリンピック代表選考会で健常者のライバルを退け、国家代表に選ばれたナタリーデウトイト。北京でメダル獲得はなりませんでしたが、彼女の今の夢はロンドンでのメダル獲得です。目標を持つ人生は何と素晴らしいことかと思えます。しかし一方で世の中には、当面の目標は持ちつつも、人生の究極の目的、つまり何のために生きているのかという問いに答えを持たない人が大勢います。人生の目的とはいった何なのでしょうか？そしてそれはどうすれば手に入れることができるのでしょうか？

<人生の目的を見つけるための、ポイント1> 『自分を捨てる』

世のため人のために活躍しているように見える人でも、実はそのほとんどが人の評価を求めてやっています。人は自分の神、救い主にしがわれない限り、結局は自分のためにあらゆるものを利用するのです。神さえもその対象にしてしまうのが人間です。自分を捨ててとは、自分の欲や、名誉、利益、安全のために生きるのではないということ。それは人生の「目的」にはなりえないからです。

<人生の目的を見つけるための、ポイント2> 『自分の十字架を負う』

「自分の十字架」とは私達一人一人に与えられた「使命」のことです。イエス様は実にfairな方で、十字架を負うことで私達が金持ちになるとか、出世するとか、病気が治るなど、いいことばかり言っておられません。恥や苦しみもそのことで一緒に味わうかもしれない、でも最後には栄光。その上でわたしについて来いと言われます。イエス様の十字架は2000年前、歴史上一度きりの事件でしたが、それによる罪の赦しと救いの完成こそがこの世に来られた目的、イエス様の使命でした。イエス様は、ご自分を捨てて十字架に掛かられましたが、今主は、私たちにも、それに倣えと言っておられます。

<人生の目的を見つけるための、ポイント3> 『み言葉に立つ』

ペテロはイエス様と出会い、弟子となり、それも12人中の一番弟子として活躍しましたが、イエス様が捕えられるという肝心な場面で裏切ってしまう。そのことは事前に予告され、「そのことのためにすでに祈った。だから挫折をしても立ち上がれ」と言われていました。当初自信にあふれていたペテロは気にもかけませんでした、その分打ちのめされました。しかしイエス様の語られたそのみ言葉が心に留まっていたからこそ、どん底まで突き落とされた後にも、彼は気づき、悔い改めに導かれ、立ち直ることができたのです。

<まとめ> すべての造られた者には目的がある。ペテロしかり、ナタリーしかりです。ペテロの使命は魚を取ることではなく、キリスト信仰を確立し、最後は殉教の死を遂げることでした。ナタリーは世界のハンディーキャップを負う人たちに生きる希望と力を与える、その使命のために自分は今生かされているのだと言います。だから泳ぐのだ、表彰台に立つのだと。主があなたを造られた目的は何でしょう。自分に与えられたテーマを知り、それに生きる時、私達は疲れることなく、最後まで走りきれる人生に変えられます。あなたも今ここから、ぶれない人生、標的のど真ん中を射抜く人生をスタートしませんか？

「私は勇敢に戦い、走るべき道のを走り終え、信仰を守り通しました。今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。」(第IIテモテ4：7～8)

「若者も疲れ、たゆみ、若い男もつまずき倒れる。しかし主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。走ってもたゆまず、歩いても疲れぬ。」(イザヤ40：13)